

sizen no nakade kosodate siyou

野外保育

森の子

since 2002
MORI NO KO

2003. 晩秋号

しばらく暖かい日が続いていましたが、有明山が雪化粧をはじめました。本格的な冬の到来です。雪が降らないとサンタさんがソリに乗ってやってこないんじゃないかと心配になってしまいますが、これで一安心ですね。どうかホワイトクリスマスでありますように・・・。



第一回森の子まつり、大成功。盛り上がりました！

11月8日。森の子で「第一回森の子まつり」が開催されました。前日まで心配された雨雲はひと休みしたのか、あたたかく晴れた土曜日になりました。森の子メンバーは朝8時半に集合し、お母さんスタッフは最終のスケジュール確認の後、各自の持ち場の準備に取りかかりました。先生が用意して下さった新しいお揃いのバンダナを締め、気持ちも新たに身も心も引き締まる思いでした。

準備に追われる中、ふと気づくとお客さんがひとりふたりと集まりだしています。いつのまにか開始時間の10時になったのでしょうか。『ああ、お客さんが来てくれた・・・』と喜びをかみしめたのも束の間、怒濤のように次から次へと人が押し寄せ、会場はみるみるうちに人の波であふれんばかりの賑わいになりました。各体験コーナーには人だかりができ、順番待ちをする人ができるほどの盛況ぶり。お客さんへの対応でスタッフ誰もが手一杯になりました。いまだかつて予想もしなかった急展開に、焦るやら緊張するやら目が回るやら。でも、なんだかうれしい！こんなにたくさんの人に興味をもってもらえるなんて。森の子のメンバーであることが心底誇らしく思えた瞬間でした。

絵

森の子まつり



にじみ

朝、にじみ絵の準備をしていると、ゆいなちゃんのお友達のるかちゃんが「やりたい。」と言って来てくれました。そして、しばらくしてお父さんと来てくれました。しかし、るかちゃんより先に描き始めたのは、なんとまどかちゃんの富山のおばあちゃんでした。「孫に頂戴って言ったら、だめって言われたから、自分で描こうと思って。」と言っていました。そして、お友達にも上げるのだと言って4枚描かれ、にじみ絵の材料も買われていったそうです。このように、大



フリーマーケット

森の子まつりの時に小学生はフリーマーケットたんとうでした。子どもたちで、フリーマーケットをやるのは、はじめてでした。お金のけいさんができるかとか、おきゃくさんがくるかどうかかわらなかったけど、けっこうしょうがくせいがいだからあんしんしました。1ばんさいしょにかいにきてくれた人は、ぼうしをかっていってくれました。そのときに、かいにきてくれたひとが『よくがんばっているね。』とっておまけに200円くれました。その時はとてもうれしかったです。とちゅうでほいくえんのえんちょう先生がかいに来てくれました。おにぎょうをかっていってくれました。そのときは、ほいくえんのことを思いました。とちゅうでものがなくなってしまったので、ともこさんが「フェルトボールをつくる?」とってくれたのでみんなでつくりました。じぶんでつくりたいという人もいたのでつくらせてあげました。もっと、むずかしいと思っていたけれどそんなにむずかしくなかったです。

堤さくら（小学二年生）

もちつき



前日、子供たちと畑で採った大根、白菜、にんじんなどの野菜を朝から大釜で煮て汁をつくり、4臼分のもち米をふかし、いよいよもちつきの始まり。「おもちつきたい人どうぞ」の呼びかけに、辰口パパがまずはお米をまとめてつき始め、妊婦も杵をふるい、子供も手を添えにぎやかなもちつきになりました。お雑煮一杯+のりもち一ヶで100円。つきあがるとすぐ列ができ、あっという間にうり切れ。2臼目。辰口パパが疲れたころ、辰口じいさん登場。手ぎわよくふかした米をまとめ、つき方も形が決まってる。有明の家から来てくれた青年をてきぱき指導。さすが年の功。おそれいりました。そして、もちも、どんどん売れていきました。秋吉さんがたんぼでつくったお米も五分挽きにして、ねばりのあるおもちができました。最後にあわもち。ほとんどが売り切れ。大盛況にお



わりました。
白井朋子

お散歩

「散歩にいく人集まれ」。森の子に集合したのは80名くらい。子供はモチモチの木の紙しばい。子供達が聞き入っている間に大人にむけて渡辺さん、敬子先生からお話。渡辺さんの方からは『子供の発見を大切にしてください。子供達が見つけたものを一緒に感動してあげることで、自然への目がさらに広げられていくでしょう。』というお話。もう10年以上も前から子供達と散歩をしてきた渡辺さん。宮沢賢治の童話を人体表現する活動の中で、賢治の感じた自然を子供と共に自然の中に出て見つめてきた方です。今回も「狼森と笹森、盗森」という童話を、渡辺さんとお話の中で敬子先生が読みかきせをして下さっていた事もあり、あわもちを森におそなえするというテーマを1つつくりました。そしてもう1つのテーマは、森の中で何か気に入ったもの、きれいなもの、かわったものを捜してこようということ。小学生、園児、親子グループで5つに分れ、1時間後に帰ってくるということで出発。私は親子グループ10数名で近くの森に入ってきました。「森の中に何がいるかな」「トトロ、りす、さる、虫!!」「じゃあ、その生きものたちにもおもちをあげよう」「この森を守る神様はどこにいますか?」「いちばん大きな木」ということで、大きな赤松の下にいて枯れ葉をよけてみると、りすの松ぼっくりの食べたあと(えびフライと呼ばれている)くるみの割れたものなどを発見。おもちをちいさくちぎって葉っぱにのせ、1人ずつすきなところに置いてきました。そして色とりどりの葉っぱ、きのこ、どんぐり、虫こぶ、いろいろひろって帰ってきました。森の子では、白い布の上に集めて、他の人と同じものを捜しながら、たくさんのコレクションが並びました。秋のにぎやかさが布いっぱい広がりました。

附記 翌々日、森の子の子供達と雨の中、みんなのおいてきたもちを見に行きました。みんなよく覚えていて、これは私の、僕のだ!!とおおさわぎになりました。

白井朋子





白井健二さん、朋子さん、場所と道具一式を快く貸して下さい、どうもありがとうございました。森の子一同、心よりお礼申し上げます。

since 2002
MORI NO KO

森の子ネイチャリングフェスタ

森の子活動日記は下記のホームページでご覧いただけます。

<http://www.ultraman.gr.jp/shalom/2003.8morinoko.htm>

since 2008

MORI NO KO 10月29日、快晴。小岩岳に登りました。

森の子登山第3弾、小岩岳城跡はアドベンチャーでした。

何がすごかって、穂高温泉郷から30分もかからず登れる山なのに3千m級のスリルが味わえるところ！道というより、『ふみあと』といった方が正しい道に入ってゆくと、いきなり手を付きたくなる急斜面。どんぐりを拾いたいのに子供達はがしがし登っていってしまう。きっとあの斜面の角度が登山というより、子供達には遊び感覚なのかも。なおも続く斜面では左側が急に落ち込んでいて、しかも鉄条網があって転がると危険、かつ足元はずべるといふ、自分もハラハラ、子供達にもハラハラといった感じでした。



そして頂上へ。あんなにとんがっている槍ヶ岳さえ頂上には10畳程の平らな場所があるのに、ここは安全地帯はベンチのみ、他は斜面、しかも花崗岩のザレ場ときているから、うっかりするとズルズルズル・・・子供達も気を付けないと滑っていってしまうのです。そしてその一角に松の茂みがあり、そこを通っていくと、おおー！大岩が斜面にせり出し有明地区、安曇平が一望！しかし、足元を見ると落ちたら死ぬなあ、と足が震える感じでした。



そんなミワク的な場所を大ちゃんが見逃すはずがなく、江藤さんが手を引いて見晴台へ。『コワイ、コワイよー』という大ちゃんではなく、江藤さんの声が青空に響いていました。子供達にひもを付けたいとこれほど思ったことはありません。先生の手作りのはちみつレモンを頂いて下山。帰りは別の道で、温泉郷まで立派に整備された階段が続いていて、10分程で下れました。しかし長峰山では平気だったのに、今回30分ほどの上り下りのみごと筋肉痛になりました。子供達はいつもの散歩って感じで軽〜くこなしていて、たのもしく思いました。それにしても不思議な場所で、なりたちや、歴史を調べてみるのも面白いかもしれません。（辰口）



満願寺へ七・五・三参りに行ってきました。

11月14日(金) 薄曇りの肌寒い中、行きは超スローペース。はっぱジャンケンをしたり、石を拾ったり、泣く子がいたり……。のんびり歩きました。「おなかがすいた」という声もきこえたけど、浦野さんが用意してくれたおやつを食べてがんばりました。お寺では、皆で健康をお祈りしたあと、ぬらし絵で作った袋をもらいました。中身は千歳あめ。すぐに食べたそうだったけど、おうちまでがまんがまん。お弁当を食べて元気をとりもどしたら、帰りは超ハイペース。行きの半分位の時間で森の子まで戻ってきました。(綱脇)



満願寺境内にて。お参りする子供たち。



「こうやって手をあわせるんだよ。」



みんな健康で、無事に成長しますように・・・



千歳飴が入った袋は
森の子達が描いたにじみ絵
の画用紙で作りました。

レストランへお引越し。森の子の冬支度です。

12月1日、冬を目前に、ひと足先に森の子の引っ越しがおこなわれました。臼井さんご夫妻のご好意により、今年も冬の間シャロムヒュッテのレストランを使わせていただけることになったのです。当日の朝、時間のあるお母さん方がテーブルや椅子を端っこに寄せて森の子の家財道具一式が運びこまれると、たちまち広い居心地のいい空間ができあがりました。子供たちは早速自分の荷物が入るロッカーを確認したり、木のおもちゃを手にとって、楽しそうにしていました。厳しい冬もここなら安心ですね。



先生と焚き火を囲んで。

先生からの熱いメッセージをいただきました。

12月11日、来年度入園予定の保護者の方々と交えての保護者会がレストランで開催されました。おなじみ、『おはよう』を全員で歌ったあと、依田先生が保育講話をして下さいました。「自立はゆっくりでいいんだなあということを実感しました。」という狩野さんの感想からうかがえるように、先生が語られたお話はとてもあたたかく、素直に胸に落ちるものでした。日々森の子に全身全霊を費やし、真剣に子ども達を見つめてこられた依田先生。机上の保育理論ではない、生の保育現場からの言葉には、子供たちを愛してやまないまっすぐな先生のハートがいっぱい詰まっているのを感じました。

おしまいに、キャロルキングの「You've got a friend」が流れる中、落合恵子さん訳の日本語歌詞を先生が暗唱して下さいました。先生はこの歌も、落合恵子さんもお気に入りなんだそうです。

依田先生、お疲れさまでした。ありがとうございました。

・・・・・・・・別のページに詩を載せました。どうぞご覧下さいね。・・・・・・・・

12月4日。蜜蝋ろうそく作りをしました。

「みつろうって何からできてるか知ってる？」。朋子さんの問いかけに、子供達は首をかしげて考えます。「ねんど！」と答えた子もいましたが正解はありませんでした。蜜蝋が蜂の恵みであるというお話を聞いてから、用意されたろうそく芯を手にししました。温められた蜜蝋入りの缶が置かれたテーブルを前にして一列に並び、一人ずつ順番に「1・2・3」の呼吸で蝋に芯を浸します。「なんかいいにおい。」「あまいにおいがする。」「おさないで、おさないで。」にぎやかで楽しそうな子供たちの歓声が飛び交います。いっちゃんは幼いまゆかちゃんの手を取り、一緒に並んでろうそく作りを手伝っていました。子供達はコツをつかむのが早くすぐに慣れて、小さな冬のイベントを楽しんでいました。浸すごとにろうそくは次第に太くなり、10回浸したところで先生に干してもらっていました。仲良く並んだ12本のろうそくは、森の風にゆられて静かに固まってゆきました。これで冬の準備がひとつ整いました。この手作りろうそくは、「森の子クリスマス会」の時に活躍する予定です。



私の英語のオランダ人の先生から聞いたお話です。
12月になると、サンタさんのお使いの人が子供達を見に来ます。
その人は黒いマントを着ていて、白い馬に乗って空を駆けてくるのです。
子ども達がいい子にしていると、暖炉のところに置いた木靴や吊るした靴下に、
小さなプレゼントを入れていってくれます。
そして、クリスマスには大きなプレゼントをいれていってくれます。
でも、いい子にしていないと、その子は袋に入れられて、
連れて行かれてしまうということです。
だから、子ども達は12月になると、
毎日ドキドキして、靴下を覗くのですって。

Beijos Yoda

。。。小久保さん、ご協力ありがとうございました。。。。

森の子だより編集室では、皆様からのご意見、ご要望、
寄稿、公告掲載を歓迎します。「子供がこんな面白い絵を
描いたんだけど・・・」、「小説でも連載しちゃおうかな」、
「こんなお店みつけたよ」などなど何でも結構です。誰
でも気軽に参加してね。お待ちしております。

編集後記

家庭での編集作業に限界を感じ、シャロムの地下室
を貸していただいて独りコツコツ作った晩秋号です。
地下室の扉を開けたとたん展開される異様な光景に
皆さん驚かれますが、でもホントにこの場所、不思議
なくらい集中できてはかどるんです。まだまだ未
熟な『森の子だより』ですが、より良い紙面の充実
を図るために日々精進してまいりたいと思う所存で
ございます。。って、なんか相撲取りみたいだけど
これからもがんばります。次号は出産から早3ヶ月。
りんちゃんが編集長を務めます。お楽しみに！

森の子まつりアンケートから

みなさん、森の子まつりお疲れさまでした。
アンケートに寄せていただいた先生のご意見
をご紹介します。



森の子まつりは、お母さん方のパワーで実現できたのだと思います。

8人のお母さんが心をつにした表現だと思います。感動しました。

残念だったのは、当日、行き場をなくした子がいたことです。森の子は、子どもと保護者と保育者が共に過ごす場所です。子ども達をもっと主体的に動ける場や、拠点があったら良かったと思います。

そういうことを考えると、来年は2回目でもあるので、体験という要素より、おまつり（収穫祭、感謝祭）ということに重点をおいていった方がいいのかと思いました。だから、ぬらし絵はやめて、私は、パネルシアターをやるぐらいで、子ども達の拠点になったほうがいいのかな。その形をどういうものにするかは、まだ考えていませんが。

でも、今年、思い切ってやってよかったですね。森の子1年1年成長していますね。3つの大事なことを心に置いて、またみんなで続けていきたいです。

それが、森の子のまわりの人の幸せにもつながっていくのだと思います。

依田敬子

『You've got a friend』キャロルキング 落合恵子 訳 依田敬子 語り

あなたが落ち込んだ時 悩んでる時 なくさめてほしい時 すべてがうまいかない時
あなたの目を閉じて 私のことを考えて すぐに私は飛んでいく あなたの暗い夜さえ 明るくするために

あなたが私の名前を呼ぶだけで どこにいても 走って 走って 走って
私はまた あなたに会いにいく 冬でも 春でも 夏でも 秋でも あなたが呼ぶだけで 私は飛んでいく

あなたが友達だから あなたの上の空が暗くもり 雲でいっぱいになり 北風と木枯らしが吹きはじめたら
頭をしっかりと上げて 私の名前を叫んで すぐにあなたの部屋を ノックするでしょう

あなたが私の名前を呼ぶだけで どこにいても 走って 走って 走って
私はまた あなたに会いにいく 冬でも 春でも 夏でも 秋でも あなたが呼ぶだけで 私は飛んでいく

友達っていいでしょう 人々があなたを傷つけて 見捨てても
もしあなたがそうさせるなら あなたの魂も持っていく でもそうさせないで

あなたが私の名前を呼ぶだけで どこにいても 走って 走って 走って
私はまた あなたに会いにいく 冬でも 春でも 夏でも 秋でも あなたが呼ぶだけで 私は飛んでいく

だって あなたが友達だから



新しいお友達をご紹介します

森の子に通うようになってから約ひと月が過ぎた拓也くん。

もうすっかりみんなとお友達ですね。みんなよろしくね！



松田拓也（まつだたくや）くん

平成10年7月4日生まれ 寅年のかに座、A型

町民プール東側にお住い。小学校は穂高南小学校になります。

とってもやさしい拓也くん。好きな遊びは「戦いごっこ」です。力が強いので敵になると痛いんですって。体を動かすのが大好きで、いつも動いているけれど、なぜか体は細いそうです。森の子に来るようになってから変わったことは、登園するとき明るくなったこと。そしてなによりも「落ち着いた」そうです。

お母さんの和子さんは、岡山生まれレバノン経由の東京育ちです。お父様のお仕事の関係で小学校4, 5, 6年の3年間をレバノンで過ごされました。最近コーフンしたことは「森の子の散歩」。趣味は旅行。おいしいものを食べること。蓼科の北欧料理店ガムラスタンは大のお気に入り、美食追求の為には距離を問わずどんな遠くにも出かけるんだそうです。日頃はパソコンの前に居る事が多く、オークション、ネットショッピング、TVドラマのHP、年賀状作りにハマってます。